

# みのの EDO

東京 笠原情報誌 MAIL版

## 特集 セラミックタイル美濃2025

建築・建材展

# ようこそ、 タイルの森へ!

3月4日(火)～7日(金)の4日間、第31回「建築・建材展 2025」が東京ビッグサイト(東京都江東区)にて開催された(主催：日経新聞社)。同展は、各種建材、設備機器などを幅広く紹介する建築総合展。

多治見市美濃焼タイル振興協議会が主催し、タイルメーカーや商社が出展する「セラミックタイル美濃2025」の展示内容を紹介する。



昨年に引き続き、名古屋芸術大学とコラボレーション。コミュニケーションアートコースの松岡徹教授にご協力いただき、有志の学生たちがライブアートに挑戦。4日間をかけてアートを完成させた。



来場者もアートの制作に参加。モザイクタイルを使って小さな花を制作してもらった。



豊かな自然に囲まれた  
多治見の風景を  
タイルアートで表現!

山から遊びに来た動物たち。

青色の様々なタイルが  
受付カウンターを彩る。



休憩スペースのベンチも  
学生たちの作品。

### 名古屋芸術大学・松岡教授に聞きました!

#### —大変だったことは?

昨年秋頃からデザインを考えはじめ、今年の1月後半から制作に取り組みました。タイトなスケジュールで、大学は春休みという中、学生たちは毎日のようにタイルを張りました。根気が要る作業でしたが、モチベーション高く頑張りました。

#### —ご自身もタイルを使った野外アート作品を制作されていますが、タイルのよさは?

ペンキやプラスチックではどうしても色が褪せてしまいます。タイルが素晴らしいのは、100年、200年と丈夫で長持ちすることですね。



初日に  
多治見市の  
高木貴行市長が挨拶。



## 「セラミックタイル美濃」各社ブース

今回は15社が出展し、  
新商品や試作品を披露した。



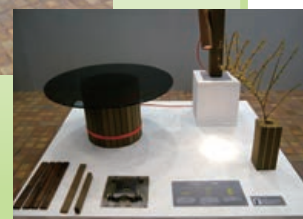
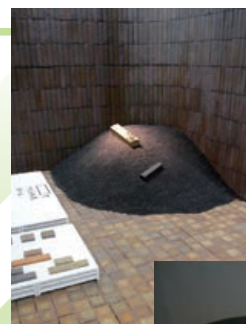
### (株) アイコットリョーフ

目玉は、デジタル加飾技術（インクジェット）を用いた外装モザイクタイル「グリッド・クォーツ」「グリッド・ストリーム」「グリッド・モルタル」。天然石の表情や、モルタルのやわらかなムラ感を表現する。湿式タイルの新商品「大粉引（おおこびき）」「鐘音（かねのね）」は、焼き物本来の美しさや質感を持つ。



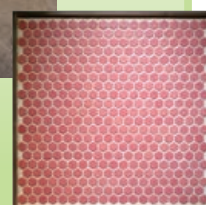
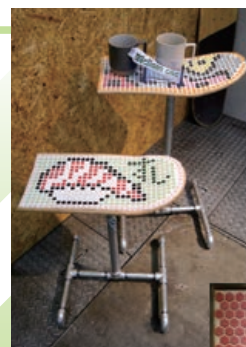
### (株) エクシイズ

研究開発部門のecorevo（エコレボ）が、リサイクル率100%を達成したタイルを生産プロセスから紹介。都市ごみや廃粘土を原料とし、二酸化炭素の排出量を抑えた焼成方法を採用。従来のタイルと変わらない機能性を有する。プロダクトデザイナー・James Kaoru Bury氏、家具メーカー・カリモクとのコラボレーション作品も初展示。



### (株) オザワモザイクワークス

カフェなどのリノベーションをテーマに温かみとスタイルを兼ね備えたタイルデザインを提案。マットな質感と釉薬のゆらぎを特徴とするブランドRoche（ロシェ）では、独特な色幅を持ち、土の温かみを感じる新シリーズFINO（フィノ）を展開。廃棄されるスケートボードのデッキとタイル、ガス管を利用したパイプ脚でサイドテーブルを制作するキットを発売予定。





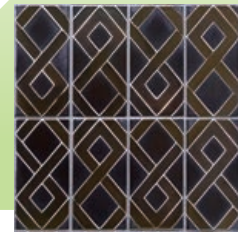
## (株)カネキ製陶所

ブース正面に展示した「銀雲 Ginun」は、昨年の試作品を商品化したもの。煉瓦のような風合いを持つ外装タイルで、施釉技術によっていぶし調に仕上げる。光の当たり方によって銀色に輝き、様々な表情を見せる。試作品として、再生原料を57%使用したタイルを紹介。



## 三協製陶(株)

壁には細長いパネルを並べ、床にも隙間なくタイルを張り、新商品や試作品を紹介。輸出と国内販売の両方を手掛けており、主にアメリカで販売している多種多様なプールタイルを今後は国内でも展開していく。国内向けに新色の開発にも力を注ぐ。写真は上から新商品「クラシカル」「結月」。



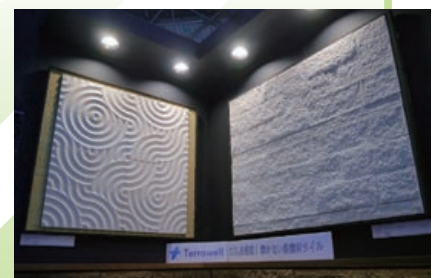
## 杉浦製陶(株)

毎年、試作品の人気投票を実施し、上位になったものを商品化。「玉ねぎと水滴と、時々、お化け」は、昨年1位を獲得した新商品。裏面に「LOVE & PEACE」を刻み、売上げの一部を寄付するプロジェクトを実施。1平米から発注できるオーダーメイドタイルを開始予定。10種類の形状、50色をベースとし、オリジナルカラーにも対応する。



## 鈴製陶(株)

得意とするのは、石を割ったような本割肌のタイル。パターン化したものではなく、実際にタイルを割って作るため、1枚ごとに異なる面状を持つ。ブースではライティングに工夫し、本割肌の凹凸が生み出す多彩な表情と重厚感を伝えた。併せて(株)加納の「テラウェル」を紹介。焼かずに作るタイルで、CO2を吸収する機能を持つ。





## (株)セラメッセ

テーマ「原点回帰+α」には、主力商品である外装タイルのあり方、方向性を再考するという意味合いを込めた。外装タイルをメインに既存商品および新商品を展示し、和の色合いで12種類を展開する試作品も紹介。内装タイルでは、一つひとつ手で作る花のようなタイル「LuLu(ルル)」などを展示した。



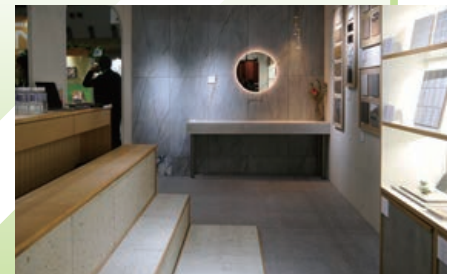
## ティージェヌ (株)TNコーポレーション

ブロンズや黒、深いグリーンといったシックなタイルをメインに紹介。ブロンズのタイルには、自社開発した釉薬を使用。古色を帯びた深みのある金色を持ち味とする。白のタイルでは、様々な形状やテクスチャを組み合わせ、個性的な壁面を作り出すことを提案する。



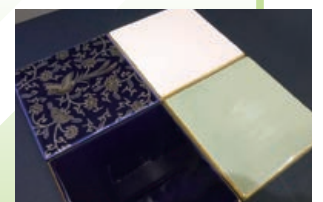
## ティーシック (株)TChic

メインテーマは、ホテルエントランス。国内各地の銘石を忠実に表現した大判タイル・倭(やまと)シリーズの「大谷石」「十和田石」が優雅な空間を演出。カウンター正面のUita(ウлта)は、マット釉とブライト釉を組み合わせた商品。ランダムに張ることで光の反射が活かされ、華やかな雰囲気。



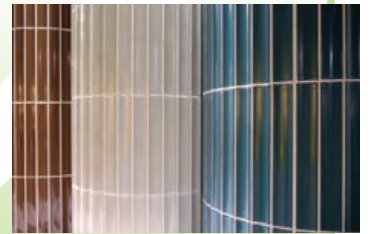
## 長江陶業(株)

産地問屋として地元多治見の商品をはじめ、海外のメーカー、自社で企画したオリジナルまで、多種類のタイルを扱う。有田焼の老舗メーカー・香蘭社、大阪や多治見の作家とコラボレーションした新商品を紹介。名古屋にショップ、東京と大阪の拠点に加えて、2023年に福岡三越のショールームをオープンした。



## 名古屋モザイク工業(株)

テーマは「調和 — タイルと自然との共生」。美しい色彩を持つタイルと緑の植物を調和させ、リラックスできる空間を提案した。また、リサイクル原料を使った新商品を紹介。「リネクシス」は、廃棄タイルや窯業廃土などを100%使用、「クレイリード」は、砂利スラッジや微粒珪砂などを最大85%使用している。



## ニッタイ工業(株)岐阜工場

煉瓦メーカーとして創業し、80年以上湿式タイルを製作する。湿式タイルは、土の粒立ちや窯の環境が、焼き色と形にそのまま現れることが特徴。今回は、釉薬を用いた色鮮やかなタイルと組み合わせて使うことを提案。ほかに特注で製作した多種多様なタイルを紹介した。



## (株)丸喜

商業施設や住宅の壁から床まで、幅広く使用できる大型セラミックタイルを展示。大理石の質感を持つ「カンブリアン」では、新機能「ランダムコネク」が登場。タイルを任意に並べても繰り返しのない自然な柄を表現できる。新商品「ライムス」は、色・サイズ・面状を幅広く揃える。



## (有)丸万商会

主力商品の一つ、プールタイルをメインとした展示内容。大規模な施設から個人邸まで、幅広く対応する豊富なラインナップと多彩なカラーバリエーションを持ち、役物タイルも充実。プール模型を製作し、使用イメージを伝えた。来場者に向けて試作品の人気投票を行い、上位になったものを商品化する企画も。





多治見市モザイクタイルミュージアム

特別展示「青の誘惑 -タイルにみる青の世界-」  
第2期スタート! ~5月18日まで

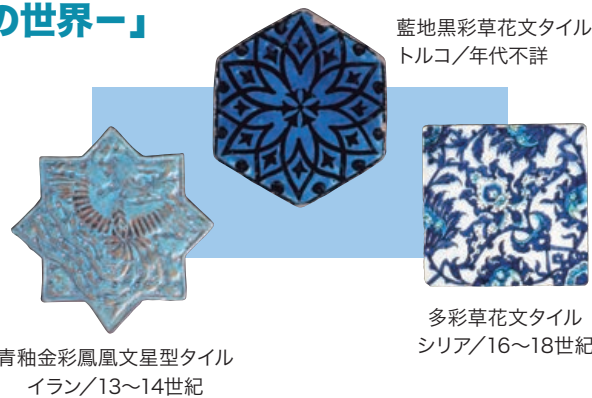
昨年に開始した企画展の第2期が3月4日よりスタート。INAXライブミュージアムおよび陶芸家・加藤亮太郎氏より借用した「青」に関わる資料や作品が展示に追加された。

今回より企画展を「特別展示」とし、内容の充実を図るとともに、来場者が理解を深められるように見せ方の工夫をしていく。今回はその一環として、図録を兼ねた「鑑賞ノート」を配布する(なくなり次第終了)。

2年後に迎える開館10周年を見据え、唯一無二のミュージアムとして存在感を高めていく。



「鑑賞ノート」には250以上の展示品ほか、展示解説や、コラムも掲載。



青釉金彩鳳凰文星型タイル  
イラン/13~14世紀

藍地黒彩草花文タイル  
トルコ/年代不詳

多彩草花文タイル  
シリア/16~18世紀

\*いずれもINAXライブミュージアム蔵

4/5(土)

ギャラリートーク

「今こそ語ろう モザイクタイル -さまざまな青の発色-」

4/19(土) & 4/26(土)

ワークショップ「青の世界をつくろう」

5/13(火) ~ 5/16(金)

動画で残そうホワイトキューブ

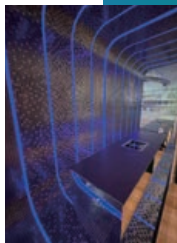
※申込方法など詳細は  
ミュージアムHPを参照。

関連企画

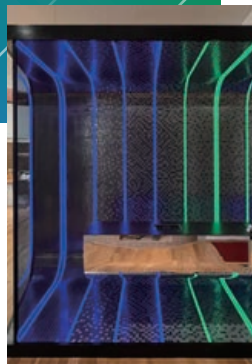
2階・産業振興フロアに  
新ブースが登場!

2階・産業振興フロアの展示室では、複数のデザイナーが設計し、タイルを用いた空間を提案している。3月に16ブースのうち2カ所がリニューアル。今回登場したのはDJブースと瞑想空間で、キッチンなど日常的なシーンが並ぶ中で異彩を放つ。長い歴史を持つタイルを通じ、「時空間」をテーマにデザインしたといい、鏡を用いた仕掛けもユニーク。タイルのイメージが広がる、こんな意外性のある提案も歓迎したい。

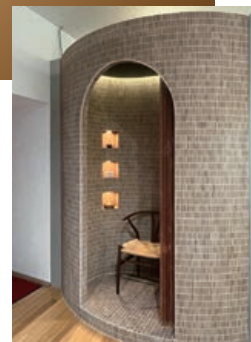
DJブース  
「Tile Time Tunnel」



側面に鏡を張り、タイルが無限に広がるタイムトンネルをイメージ。



瞑想空間  
「Tile Time Cave」



茶色のタイルが、どことなく異国情緒を感じさせる。

Touch the Tile Tajimi  
「タイルを知る タイルの可能性に触れる」  
プログラムを開催

体験型観光イベント「多治見のこみち」では、タイル製造過程を巡るツアー、工場見学、ワークショップなどを開催。3月14日~20日にプログラム2つに参加し、ミュージアムを巡った方に商品券をプレゼントする企画を実施した。4月以降もタイル関連のプログラムを開催。詳細は「多治見のこみち」HPにて。



オザワモザイクワークスの「工場見学&タイルショップ」の様子。

4/20(日)  
タイル感謝祭、今年も開催!

地元のタイル関連業者が結集し、笠原のやきものの陶祖に感謝するとともに、タイルを楽しむ多彩な企画を実施。キッチンカーも出店する。



時間 10:00~16:00

場所 モザイクタイルミュージアム前広場